

日本共産党
すみだ区議団ニュース
 第503号
 発行 日本共産党墨田区議団
 発行責任者 高柳東彦 / 編集責任者 としま剛
 発行所 墨田区吾妻橋1-23-20 ☎直通5608-6326
 墨田区役所16階 日本共産党区議会控室

台風・水害対策、障害者支援策など 決算委員会で区民要求の実現に全力

日本共産党墨田区議団

2018年度の墨田区一般会計と特別会計の決算を審査する区議会決算特別委員会が、10月21日から11月11日にかけて8日間の日程で開かれました。

日本共産党墨田区議団からは、高柳東彦、はらつとむ、あさの清美の3区議が委員となり、あさの区議が副委員長を務めました。党区議団は、区政の問題点を批判するとともに、切実な区民要求の実現にむけ、積極的な論戦を行いました。

防災ラジオの普及を

台風では防災無線はほとんど聞かれません。そのため、防災無線を受信できる防災ラジオを、静岡市では1台2千円で販売し、年間1万台普及しています。文字情報も配信され、聴覚障害の方にも有効です。墨田区は7年前に1千台を、町会・自治会などに配布しま

聴覚障害者に様々な支援策を

聴覚障害でも、生まれながらの方、大人になってからの方など様々で、筆談などでは伝わらないこともあります。あさの清美区議は、イラストなどを使った簡易なコミュニケーションボードを商店などに置くことを提案。「外国人向けに区の補助金があるが、イラストも使って障害者にも配慮を」と求めたのに対し、観光課長から「障害者への配慮は必要」と前向きな答弁がありました。



決算特別委員会で質問する、あさの区議

10数年間で4つの体育館がなくなった 文化地域にスポーツ施設の整備を

高柳東彦区議は、「スポーツ基本法は『スポーツは健康で文化的な生活を営む上で不可欠のもの』と規定しているが、この10数年間で、文化地域からは4つの体育館がなくなった。これは、



決算特別委員会で質問する、高柳区議

押上駅・旧改札口の開設が実現

2017年11月に「押上駅を使いやすい駅にする会」の陳情を採択して、区議会と区は「旧改札口を開ける」ことなどを、京成電鉄や東京メトロに要請してきました。

あさの区議は、「京成電鉄との協議状況はどうか」と問い、担当課長が「京成電鉄は、来年4月から旧改札口を開けることを決めた」と答えました。

また、あさの区議は、入園案内で「手が話ができる保育士がいる保育園」を紹介するよう求めました。

紙おむつの園内処理 来年度から実施する方向で検討

衛生面や、保護者・保育士の負担軽減から、紙おむつを持ち帰らせるのではなく、保育園で処理する自治体が増えています。高柳区議は、「わが党は、繰り返し要求してきましたが、区は、衛生面、布おむつの無償貸出制度との整合、費用負担のあり

だ」と迫りました。区長は、「区全体のバランスも含めて考える」と答えました。

音響信号の時間延長を

区内のほとんどの音響信号は午後8時に止まっています。この問題で区は、当事者の声があれば警察に伝えて延長を図るとしています。担当課長は、「警察に申し入れる」と答弁しました。

自衛官の募集で対象者名簿の提供 災害対策で区に自衛官OBの採用 区議会自民党が区に迫る

決算特別委員会で区議会自民党は、自衛官の募集事務のため、区は住民票の閲覧をさせているが、対象者(18歳と22歳)の名簿をシールにして自衛隊に提供することを要求。さらに、災害対応で自衛官OBを区の職員として採用してはどうかと、区長に迫りました。

日本共産党は、「名簿提供の根拠にしている自衛隊法施行令第120条は、『必要な報告または資料の提供を求めることができる』としているだけで、自治体に提供する義務はない。個人情報保護やプライバシー保護の観点からも、名簿提供を行うべきではない」、「災害にあたって自衛隊の献身的な活動には敬意を表すが、自衛隊の本質は軍隊だ。OBであっても、住民福祉の増進を図る機関である自治体の仕事とは相いれない。災害対策の強化を言うなら、自治体の災害対応力を抜本的に強化すべき」と主張しました。

戦争する国づくりを進めている安倍政権のもとで、このような危険な動きが全国の自治体で起きています。

視兵

▼台風19号から1カ月半が経過として、今度の台風では全国で93人が亡くなり、3人が行方不明となっています。71河川が決壊し、8万棟余りの住宅が被害を受け(11月14日現在)、未だに2500人以上の人が避難所生活(11月12日現在)をされています▼墨田区でも防災無線が届かない、避難所の開設が遅いなどの問題点が浮き彫りになりました。NHKで眠れない、食べれない、子どもがなかなか寝てくれず、ずっと抱っこをしていたら腰が痛い。子どもが遊べるもの、乳製品が全くない、「生きる気力がなくなつた」などの被災者の声が報道されています▼先日、区内の高齢の男性がこの辺は昔、雨が降るとすぐに水が溜まってしまったと言われていました。水が入らないように古いマンションなどの入口は、少し段差が高くなっています。現在は、下水道や排水ポンプが一定整備され、「減多に水がたまらなくなつた」とのことです▼しかし近年の異常気象によるゲリラ豪雨では、排水が一時的に間に合わず、自動販売機が水につかるなどの被害が出ています。また、スーパー台風により荒川が決壊した場合には、「江東5区で250万人の避難が必要だ」としています。今回の避難勧告の出し方や避難状況を見ても、250万人が一斉に避難するのは現実的ではありません▼今回の台風を教訓にして、水害対策を抜本的に強化することが急務となっています。日本共産党は、みなさんのご意見、ご要望を伺いながら積極的な提案を行っていきます。

